

世界初の「くみひもペン」

kulis

Kumihimo Ballpoint Pen



和装の帯締めなどに使われている組紐。組紐を多くの人に使ってもらいたい。使ってもらえる組紐にするにはどうしたら良いのか。その思いから生まれたのが、くみひもうるしペン。くみひもうるしペンを作るために組紐の歴史上初めて、中空二重構造の組み方を考案。考案したのは龍工房の若き職人、福田隆太。ボールペンの芯を通すために、組紐の常識を覆す、中空の構造で組み上げることを実現させた。純国産の絹で組み上げたペンは、しなやかで手になじむ。ペン先には津軽塗りを施した。使えば使うほど艶が増し、味わい深くなる。自分へのご褒美、大切な人への贈り物に最適な逸品。

龍工房の正規販売店であるアルヴォリの
オンラインショップで「くみひもうるしペン」をご購入頂けます。



アルヴォリオンラインショップ arvore-shop.com



“職人と未来をつくる”

日本の伝統の継承発展に貢献したい。
その思いを実現するため、伝統技術が詰まった、
ずっと使いたいと思って頂ける商品を
職人と共に作っています。



株式会社アルヴォリ

〒241-0021 横浜市旭区鶴ヶ峰本町2-46-17
TEL:045-489-3157 URL:www.arvr.jp Mail:info@arvr.jp



「くみひもうるしペン」の特徴



① 絹ならではの肌触り
世界初のくみひもペン

② 日本に流通する絹の
1%未満の純国産絹糸使用



③ 伝統的な漆塗り技法を
活かした津軽塗との融合



組紐 くみひも

組紐とは数十本の絹糸を一定の法則で交互に組み上げてできあがる伝統的な工芸品。帯締めに使われる組紐は、丸台や角台といった、専用の台を使い、職人が1本、1本、手作業で組み上げていく。複雑な柄になると熟練の職人が集中しても、1時間で数センチしか組むことができないという希少品でもある。



龍工房 衾工房

昭和38年(1963年)に日本橋で創業。それ以前から百二十余年に渡って組紐作りに取り組んできた、日本最高峰の工房。龍工房の帯締めは皇族をはじめ、歌舞伎界や茶道界などで愛用されている。伝統工芸士の福田隆、息子の福田隆太は帯締め等の伝統品だけでなく、ペンなど組紐を身近に使える商品づくりにも挑戦し、日々技術を進化させている。



RYUKOBO
www.ryukobo.jp

福田隆



1960年 東京都生まれ
2001年 江戸組紐糸好会副会長に就任
2014年 東京都伝統工芸士に認定
2018年 東京都優秀技能者
(東京マイスター)に認定

”粋は進化する“

普段はスーツを着ていることも多く、一見すると伝統工芸士には見えない。しかし、和装をして丸台の前に正座すると職人の顔になる。真剣な表情で絹糸を組み込む手つきに、つい息を飲む。気さくでもとても明るい太陽のような方。肌もテニスで焼けて健康的な小麦色。組紐の話になるとトークが止まらない。日本で一番熱い組紐職人。

”伝統にとらわれない“

まだ20代の若さだが、組紐を世界に広めたいという想いは日本で一番強いのではないか。今までの組紐の常識にとらわれず、新たな商品づくりに日々チャレンジしている。福田隆氏も、息子が繰り出す常識破りの組み方に驚きながらも、新たな技術の誕生に喜びが隠せない。彼が生み出す新たな組紐の可能性の数々。組紐の未来は輝いている。

福田隆太



1993年 千葉県生まれ
江戸組紐の老舗・龍工房の次世代を担う。父の背中を追いかけて組紐の世界に入り、既に10年以上の職人歴あり。